

会員会社紹介

ソフトバンク株式会社

サービスプラットフォーム開発本部
UCプラットフォーム開発部
横田 大輔



ソフトバンクグループは、創業以来一貫して、「情報産業」を軸にその時々の子会社のニーズに合わせた事業を展開してきました。1981年にパソコン用パッケージソフトの流通事業を行う日本ソフトバンクとして創業し、その後は世の中にパソコンを普及させるため、パソコンやソフトウェアを紹介する雑誌出版事業に参入しました。1996年にはインターネットの普及を見据えてYahoo! JAPANを設立し、2000年には中国アリババに出資しました。2004年には日本テレコムを買収して固定事業に参入し、その後のモバイルインターネットの世界を見据えて2006年にボーダフォン日本法人を、2013年には米スプリントを買収しました。

現在は人工知能が人間の能力を超えるシンギュラリティが近く到来することを踏まえて、あらゆるものがインターネットにつながるIoT、AI、スマートロボットをグループの3大注力分野に掲げています。また、グローバルな半導体の知的所有権とIoTにおける優れた能力を有していると判断し、2016年には英半導体設計大手のアームを約3.3兆円で買収しました。ソフトバンクはこうしたソフトバンクグループの中核企業です。なお、現在のソフトバンクは、各社が有する経営資源を集約し、国内通信事業の競争力を一層強化することを目的に、2015年4月に国内通信会社4社（ソフトバンクモバイル、ソフトバンクBB、ソフトバンクテレコム、ワイモバイル）が合併してできた会社です。

ソフトバンクでは、この4社合併以前より、各社がそれぞれ通信事業を営むのに必要となる標準を整備すべく、TTCにおける標準化活動に広く取り組んできました。ソフトバンクBBでは、ADSL サービスを提供するのに必要な標準、ソフトバンクテレコム（前身の日本テレコム時代も含む）では、伝送・信号網を中心とした固定系ネットワークに関する標準、更にソフトバンクモバイル（前身のボーダフォン日本法人時代も含

む）では事業者網間相互接続共通インタフェースやMNP (Mobile Number Portability) の提供に必要な標準の整備などに取り組んできました。また、TTCの移動体系専門委員会においては、3GPPにおける移動体通信の国際仕様策定状況を整理して専門委員会会合やTTCセミナーにて報告するなどの活動においても寄与して参りました。近年では、事業者網間をIPで相互接続するために必要となる標準の整備などに取り組んでおります。ソフトバンクとしては、今後も5G関連を始めとした、国内外の新たな標準の策定に尽力して行く予定です。



ソフトバンク本社（東京汐留ビルディング）